

取りに行く学びへ向かう授業を作る
 ～大学入試長文読解問題を利用して世界と自分をつなげよう～

島根県立松江北高等学校
 教諭 勝部 浩志

1 テーマ設定の理由

大学入試においては長文読解の占める比重が大きく、読解問題をいかに攻略するかが受験生にとって鍵となる。そのため、教師による解説が中心の授業が展開され、読解問題を一度全体で確認しただけで終わってしまい、復習は生徒に任せるといった形式になってしまいがちである。

確かに、多くの生徒にとって、英語長文は大学入試に合格するために解ければいいものであるかもしれない。しかし、合格はあくまでも「目標」であって、英語を学ぶ本来の「目的」とは言えない。大学入試問題にはメッセージがあり、大学側が測りたい力が反映されている。それは主に「純粋な英語力」と「題材についての興味・関心」という2つの側面ではないかと考える。前者は文献を読みこなす力やコミュニケーション能力であり、後者は世界への関心や世界と自分とのつながりをどこまで高めているかである。「読む」とは「知る」ことに他ならず、知ることで自分の意見を持つことにもつながる。

模擬試験やGTEC等の外部試験の結果を見ても、身近な事柄に対する問題には正答率が高いが、なじみのない問題に対する正答率は低い。また、自分の意見を表現する問題においても、基本的な文法事項や表現は定着している生徒が多いが、論理的に組み立てられていなかったり、題材によっては意見を表現することすらできなかつたりする生徒も多数見受けられる。

大学入試を間近に控えた生徒に、英語リーディングを通して、読解力はもちろん、世界に対する認識も高める授業を実践することとした。

大学入試を間近に控えた生徒に、大学入試長文読解問題を通して、読解力のみならず自己を取り巻く世界への関心を高めさせ、自分の意見を持たせ、それを共有する授業作りを実践することとした。

2 研修内容

日程	内容	会場
6月28日(火)	リーダー教員センター研修会	島根県教育センター
7月8日(金)	松江北高校リーダー教員・管理職会	松江北高校
7月20日(水)	年間計画書提出	
7月21日(木)	拠点校リーダー教員・ICT活用公開授業	松江北高校
7月27日(水)	プロジェクト学習及びポートフォリオ評価に関する研修	松江北高校
7月31日(日)	英語教育方法研究セミナー	日米会話学院(東京)
8月8日(月)	準備型英語ディベートジャッジセミナー	立教大学(東京)

8月11, 12日 (木、金)	即興型英語ディベートセミナー	コスモスクエア国際交流センター (大阪)
8月15, 16日 (月、火)	英語教育方法研究セミナー	日米会話学院 (東京)
9月12, 13日 (月、火)	リーダー教員センター研修会	島根県教育センター
11月 8日 (火)	松江地区高英研	松江北高校
11月16日 (水)	拠点校リーダー教員中間報告会・公開授業	松江北高校
12月24, 25日 (土、日)	即興型英語ディベート全国大会	大阪府立大学

3 評価の方法

本テーマでの授業実践の評価は、以下のものを用いて行うこととした。

- ・自己効力測定尺度調査
- ・授業での観察
- ・発展問題や発展活動の実施
- ・アンケートや授業評価を通じた考察
- ・模試や外部試験の結果、成績推移からの考察

4 授業実践

仮説を「教材と生徒がつながるような導入や教材の論理把握、要約、関連題材読解、自分の意見を持つ活動を取り入れることで、読みへの意欲を喚起し、大学入試問題に挑む気持ちを高めることができる」とし、下記の要領で、大学入試英語長文読解問題を用いて授業を行った。

対 象：松江北高等学校 普通科 3年4組 (文系早進度クラス) 40名

授業科目：コミュニケーション英語Ⅲ (4単位)

実施期間：平成28年4月～平成28年12月 (1月以降は進路別授業)

授業形態：導入、論理把握、要約 (日本語 or 英語 / もしくは日英両方)、関連題材読解、表現活動、視覚教材を用いての補足資料提示、通訳メソッドを用いてのトレーニング (音読トレーニング、リスニングトレーニング、シャドーイング、リテリング等)

1学期は、大学入試問題演習が本格的に始まる夏期特別授業・特別講座や大学入学後を見据えて、特にトレーニングを多めに実施し、語彙力・表現力アップに努めた。2学期はトレーニングを通してつけた力を使っての入試問題読解と関連題材読解を中心として行い、生徒の大学入試問題に意欲的に挑む姿勢と社会貢献意識の向上に努めた。

また、難しいことや新しいことへ挑戦していくことは一人では難しいため、そのような場面では「アクティブに、協働的に」ということを意識し、ペアやグループ、クラス全体で学びあい、教えあうという時間を設けた。

以下に授業の展開例を示す。1単元2～3時間で行った。具体的な内容に関しては、添付資料の指導案に示してある。

1 学期

- ・ 2時間の場合
 - 第1時：導入、語彙・単元の概要の把握、設問解説
 - 第2時：トレーニング、表現活動、関連題材読解
- ・ 3時間の場合
 - 第1時：導入、語彙・単元の概要の把握
 - 第2時：ポイントを絞った読解、設問解説、トレーニング
 - 第3時：トレーニング、表現活動、関連題材読解

2 学期

- ・ 2時間の場合
 - 第1時：導入、語彙・単元の概要の把握、設問解説
 - 第2時：サマリー、リテリング or 表現活動、関連題材読解
- ・ 3時間の場合
 - 第1時：導入、語彙・単元の概要の把握
 - 第2時：ポイントを絞った読解、設問解説、サマリー
 - 第3時：リテリング、表現活動、関連題材読解

研究授業は7月に1回、11月に2回行った。11月に行った研究授業のうち1回は本事業の中間報告会、もう1回は高英研松江地区研究大会の研究授業と兼ね、研修の集大成として校内外の先生方に取り組みを見てもらった。

5 結果

生徒の変容を模擬試験等の結果と自己効力測定尺度調査によって見てみる。「自己効力測定尺度」とは、生徒の行動に表れにくい学ぶ意欲を「自己効力」から捉え、「関心・意欲・態度」といったいわゆる情意的領域の評価を進めるものである。自己効力測定尺度は6月と12月に行った。自己効力測定尺度調査の結果は添付資料を参照。ここでは模擬試験等の結果を記述する。

英検準一級受験者ならびに合格者の数が、例年よりも、また同類型の他クラス（早進度クラス）に比べ多かった。同様に、GTEC CBT についても受験者数は一番多かった。また、センター試験英語筆記に関しては、全国平均が昨年度のものを上回っているにせよ、対象クラスの平均点は本校の同類型過年度比較で見て、過去数年間で一番高いものとなった。

6 考察

1) 試験等の結果から

英検準一級やGTEC CBT という難易度の高い試験に挑む生徒の数が過年度や同類型比較で多かったということは、個々の事情はあるにせよ、自ら学びを取りに行く姿勢を身につけた生徒がいると言うことができると考察する。また、合格者の数やセンター試験の点数を見ても、姿勢や意欲だけでなく、英語力そのものをつけた生徒もいると考えられる。

2) 自己効力測定尺度調査から

全体的に1回目から2回目で微増が見られた。学習方略の観点では、今回の授業作りで意識した「ポイントを押さえた読解から関連題材読解へ」に関係するような体制化方略項目(群化・概略化)で増加が見られたため、同じようなトピックを別の視点の英文から見ていくことの有意性を改めて感じることができる。

自己を客観的にみるメタ認知の観点では、自己評価(学習課題や状況の把握・自己目標の設定)と自己制御(課題解決のプランニング・情報処理)の項目で、それらがよりできるようになったと感じる生徒が増えた。これは、対象生徒が受験生ということもあってのことだと思われるが、トレーニングや関連題材読解を行うことで、自分の理解度や定着度を認知する時間が授業内で持てたからではないかと考察する。

また、統制感や手段的保有感の観点でも増加が見られたことから、時期が進むにつれて内容が難しくなっていく中で、ペアワーク等で協働しながら問題をこなしていったことが、自信や自分を見失わずに最後までクラスの一員としてやり抜いたと生徒が感じたからではないかと考える。

7 まとめ

今回は受験生を対象とした授業実践だったため、生徒自身の進路実現への強い思いから上記のような結果や考察が出てくる部分も多分にあると考えられる。

しかし、生徒からももらったコメントの中に心を打たれるものがあった。

「解説がポイントを押さえていてわかりやすいです。どこが大事な部分かがわかり、頭にスッと入ってきます。」

「英語が3年生になってから伸び始め、語学に対する興味を感じるようになりました。」

「単語や熟語を覚えるだけでなく、英語を話す時間があったので、より理解が深まりました。」

「英語を通じて世界を知るということをすごく楽しめました。知りたいという気持ちが大きくなりました。」

「世界の問題にもっと目を向けたくくなりました。」

本研修を通して、私自身も多くのことを学ぶことができた。本研修で得た学びを生かし、今後はCLIL(内容言語統合型学習)に挑戦していきたい。そして何よりも、これからも世界に目を向け、英語力を高め、生徒とともに学び続ける教師でありたい。

<参考文献等>

- ・添付資料【指導案】【自己効力測定尺度調査結果】
- ・和田玲(2013)『アクティブ・リーディング Super ～世界を読み解く英語リーディング～』アルク
- ・和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業～生徒の主体性を伸ばす授業の提案～』アルク
- ・伊東治己(2016)『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社
- ・三浦孝他(2016)『高校英語授業を知的にしたい～内容理解・表面的会話中心の授業を超えて～』研究社

自己効力測定尺度

		1回目	2回目	差分	1回目	2回目	差分
統制感	Positive Event	2.33	2.40	0.08	2.59	2.70	0.11
手段保有感(努力)	Positive Event	2.95	3.19	0.24			
手段保有感(能力)	Positive Event	1.92	1.96	0.04			
手段保有感(教師)	Positive Event	3.25	3.33	0.08			

社会的関係性測定尺度

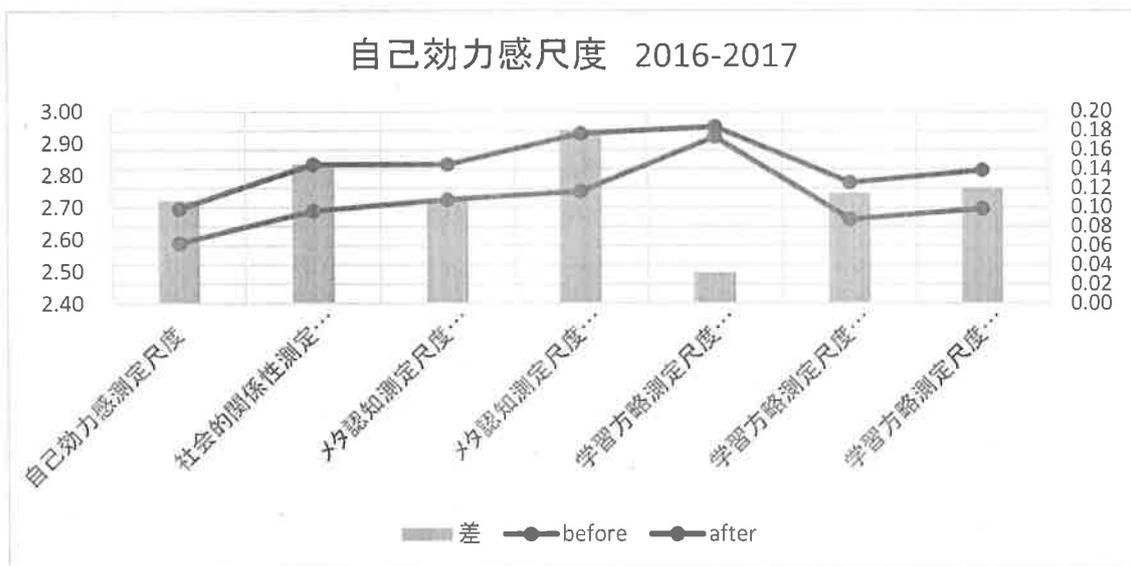
		1回目	2回目	差分	1回目	2回目	差分
教える役割		2.57	2.68	0.11	2.69	2.83	0.15
周囲の期待		2.52	2.61	0.09			
身近な友人		2.98	3.22	0.24			

メタ認知測定尺度

		1回目	2回目	差分	1回目	2回目	差分
自己評価	学習課題の把握	2.60	2.73	0.13	2.73	2.83	0.11
	学習状況の把握	2.86	2.94	0.08			
	自己目標の設定	2.72	2.84	0.12			
自己制御	課題解決のプランニング	2.75	2.93	0.18	2.75	2.93	0.18
	課題解決の情報処理	2.75	2.93	0.18			

学習方略測定尺度

		1回目	2回目	差分	1回目	2回目	差分
リハーサル方略	暗唱	2.89	2.88	0.00	2.92	2.95	0.03
	模写	2.90	2.95	0.05			
	ノート化、下線引き	2.98	3.03	0.05			
精緻化方略	イメージ化	3.05	3.18	0.13	2.66	2.78	0.12
	言語的符号化	2.55	2.60	0.05			
	要約、ノート化	2.39	2.55	0.16			
体制化方略	群化	2.68	2.80	0.12	2.70	2.82	0.12
	概略化	2.71	2.83	0.12			



教科リーダー養成・活用事業 拠点校中間報告会【松江北高校】 研究授業（英語）
参観表

授業者 内容	松江北高等学校 教諭 勝部 浩志 3年 4R コミュニケーション英語Ⅲ 「取りに行く学びへ向かう授業を作る ～大学入試長文読解問題を利用して世界と自分をつなげよう～」		
項目別の評価と気づき (評価値 大変よい 4 よい 3 普通 2 よくない 1)			
	項目	評価	気づいたこと
導入	授業のはじめに本時のねらいが示されている。	3.6	
	生徒の意欲を高めるような問題提示を工夫している。	3.7	● 大学入試の過去問を用いておられ、またその時代の流れも理解させながらの授業で、生徒たちにはわかりやすかったと思う。
	必要に応じて教材・教具が準備されている。	3.8	● スライドがAll Englishの授業をする際に大きく役立っていることを改めて感じた。 ● よく準備されていたと思う。ICT全般に言えることだが、後ろの生徒がどのくらい見えているか気になるところである。 ● ICT機器を活用されるにあたって、大変見やすくポイントを押さえた教材、様々なことに関連付けた教材などを準備されていて、すごいと思った。
展開	授業内容を板書等で構造的に表現し、わかりやすく示している。	3.5	● パラグラフの構成を図で示していて、実際に段落ごとに読んでいく上でリアルタイムで役立っていた。
	発問・指示が適切である。	3.7	
	生徒が話し合ったり書いたりして思考を深める時間を確保している。	3.3	
	生徒の発言・活動に対して適切に評価が行われている。	3.1	● 生徒の様子をととてもよく観察されていて、生徒の状況をつかんでおられた。
	生徒の理解の程度を把握し、適切な支援が行われている。	3.1	● 演習時間を生徒に合わせて変えていた。
	本時の評価規準（目標・ねらい）に即した内容である。	3.5	
まとめ	授業の最後に本時のまとめが示されている。	2.6	● 時間切れになってしまった。コードが抜けたのが残念。
	生徒の振り返り活動が確保されている。	2.5	
授業全体を評価して（良かった点を記入）			
<ul style="list-style-type: none"> ● ICTを活用され、とかく退屈になりがちな演習をほぼすべて英語でできてすごいと思った。 ● 単に英文を訳して読むということだけでなく、論理展開の説明など、読解のポイントが示されていた点は良かったと思う。 ● 生徒の知的レベルに訴える内容だった。また、発問の内容や活動も適切だった。 ● ノーベル賞という社会テーマに一度意識を持っていくことで、「英語を読解したい」という気持ちを強くしているような気がした。 ● 3年生のこの時期の公開授業は大変ご苦労されたと思う。緊張感のあるテンポの中で、先生のユーモアを交えつつ、非常に生徒が集中していたように感じた。単に紙面を読むのではなく、国際的な話題への興味を刺激するということは他教科の学習にも通じ、勉強になった。 ● スライドが事前によく準備されており、時間の確保に役立てられていると感じた。語句・文法だけでなく、背景についても考えさせられる授業だった。 ● プリント準備やICT機器を使用され、とてもテンポの良い流れであった。 ● 様々なことに関連付けた教材を準備することは、日々の教材研究がなければ不可能なことだと思う。あれだけの内容をあれだけスマートに展開していくことが、生徒の深い学びにつながるのだと思う。 ● 目標に合った教材の提示が適切であった。時間を設定し、自分の意見をまとめる課題に生徒が真摯に取り組んでおり、平常の授業を垣間見ることができた。 ● 授業のテンポがよく、それにしっかり生徒がついていっていたのすごいと思った。授業の始めに行われたプレゼンは本当によいものだった。人前で話す機会を（しかも英語で）確保している点がとても勉強になった。 ● 50分間の授業の中にリーディングに留まらない様々な活動があり、生徒の英語力を総合的に伸ばす授業デザインになっていた。また、英語の文章をただの1題の問題としてではなく、同じテーマの別の文章と併せて扱ったり、内容の背景となる情報を示したりして、英語を読むことについてもそこに書かれた内容を生徒が大切にするような授業だった。 			

授業に対する感想・意見

- 今日は予習不要の授業だったが、普段はどのようにしておられるのか聞かせていただきたかった。
- 最初のペアの発表など、生徒のレベルの高さを感じた。
- うまく興味・関心をつなげるように活動を移行させていた。
- 機器も使いながら、非常にテンポよく進められていて、生徒の集中力も高く保たれているなど思った。
- 指示・発問が明確で、見通しを持ちながら学習していたと思う。入試問題を扱いつつも、世界の出来事に関心を持たせたりして、読解力が身につく授業だと感じた。
- 日々先生が生徒たちに対して、丁寧に指導されている姿があると感じた。英語での発表など、レベルの高さを感じた。
- 導入がしっかりしていて、内容にのめり込む形式になっていたと思う。専門外だが、とても興味が持てた。
- 生徒が教材から何かを学び取ろうとする意欲があり、よい緊張感のある授業だった。
- ICTの活用方法がとても勉強になった。毎回あのような授業をされているのかと思うと、自分もがんばらなければ、という気持ちになる。今までICTの活用方法がよくわかっていなかったが、この授業のICTの活用方法をまねていき、自分のものにしたい。
- 1時間の授業の中でライティング、スピーキング、リーディング、リスニングのどの技能も鍛えるような活動が含まれていて、充実した1時間となっていた。読解問題の最後の2問をどのように進められるか見られなかったのが残念だった。

今後に向けての期待、助言等

- 今回は早進度クラスということだったが、普通進度クラスではどのように授業を展開されるのか、拝見してみたい。
- 興味が持てることで、素直に「学びたい」と生徒は思うのだと感じた。事前の教材研究は大変だろうが、練られた教材づくりをしていきたいと、自分自身も強く思えた。
- 3年生ではなかなかできないかもしれないが、英語ディベートをぜひ授業の中に取り入れていただきたいと思う。

第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ 学習指導案

日 時： 平成28年7月21日(木)
 第6校時 14:35～15:25
 対 象： 3年生 4R 40名
 場 所： 4R 教室
 授業者： 勝部浩志

1. 単元名

NEO 現代を読む Standard (いわずな書店)
 Unit 8 Education—Therapy dogs—

2. 単元の目標

- (1) 読み取った情報をもとに、文章に関連する英文を読んで伝えあい、意見交換する。(関心・意欲・態度)
- (2) 読み取った情報をもとに、文章を英語で再現する。(表現の能力)
- (3) 500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)
- (4) 同格の that 節、間接疑問文を用いた文の構造を理解する。(知識・理解)

3. 単元の評価規準

観点	ア. 関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 知識・理解
評価規準 単元(題材)の	読み取った情報をもとに、文章に関連する英文を読んで伝えあい、意見交換をしている。	読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができる。	500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解することができる。	同格の that 節、間接疑問文を用いた文の構造を理解している。
学習活動における 具体的評価規準	ペア、グループ活動において、読み取った情報をもとに、文章に関連する英文を読んで伝えあい、意見交換をしている。	ペア、グループ活動において、読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができる。	本文を読んで、教師の発問やワークシートの問題に答えることができる。	ペア、グループ活動において、学習事項を活用して会話をすることができる。

4. 学習の基盤

(1) 生徒観

(2) 教材観

本課は、セラピー犬を読書教育支援に活用した取り組みについて述べている文章である。セラピー犬に定期的に本を読み聞かせることで、子どもたちの読書力だけではなく自己イメージの向上にもつながると解説されている。不安感がなく、楽しみながら学ぶことができる環境がそのような向上につながることを、生徒自身と重ねて考察できる教材である。

(3) 指導観

日本でも近年セラピー犬に対する関心が高まっているが、セラピー犬が読書教育支援に活用されていることを知っている生徒はほとんどいないと考えられる。読書教育支援犬プログラムがいかに効果的なものであるかを、プログラムを始めたインターマウンテンセラピーアニマルズ (ITA) を中心にその活動を捉え、関係者の感想を読み取ることで確認していきたい。

5. 単元の指導と評価計画

時程	ねらいと主な学習活動	評価規準				評価方法
		関	表	理	知	
第1時 (1時間)	○語彙を確認する ○単元の概要を把握する ・論理展開、段落構造の把握			●		ワークシート 活動の観察
第2時 (1時間) ☆本時	○読書教育支援犬プログラムを中心に英文を理解する。 ・内容把握、音読、サマリー		●	●		ワークシート 活動の観察
第3時 (1時間)	○設問解説、表現の確認・定着 ○読書教育支援犬プログラムに関わった人の感想を読んで伝える ・ペア、グループワーク	●	●		●	ワークシート 活動の観察

6. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①読み取った情報をもとに、文章を英語で再現する。(表現の能力)
- ②500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)

※「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標との関連 → 読むこと①

◎松江北高等学校「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標 (第3学年終了時)

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
①身近なテーマ・社会問題に関して、客観的な根拠と共に自分なりの考えを述べるができる。 ②相手の意見を理解し、自分の意見を主張することができる。	①身近なテーマ・社会問題に対して自身の意見を、説得力ある根拠と共に主張することができる。 ②日本語特有の表現に対しても、その意味するところを即座に見抜き自然な英語表現に改めることができる。	①話し手の意図や内容、状況を理解し、情報を正確に聞き取ることができる。 ②比較的速いスピード(170wpm)で話されるまとまりのある英語を、要点を把握しながら理解することができる。	①500~600語程度の抽象的な英文を読み、大まかな内容が理解できる。 ②センター試験の読解問題で90%以上の得点ができる。

(2) 展開

	生徒の活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (7)	Warm Up & Review ・本時の目標を提示する。 ・Review questions とパワーポイントを用いて、全体の内容を復習する。 【ペア (グループ)】	・本文の内容を確認させる。	教師の問いに英語で答えようとしているか (応答)
展開 (40)	Comprehension 1 ・Review questions で確認した内容をもとに、読書教育支援犬プログラムについて英語でまとめる。 【ペア (グループ)】 ・いくつかのペア (グループ) を指名し、発表させる。 ・解答例を音読、暗唱する。 ・読書教育支援犬プログラムについての動画を見て、理解を深める。	・本文の内容を確認させる。 ・クラスに聞こえるような声の大きさを発表させる。 ・注目すべきポイントを確認する。	意欲的に取り組んでいるか (観察) 大きな声で意欲的に取り組んでいるか (観察)

	<u>Comprehension 2</u> ・ 本文を音読する。【個人】 Chorus reading Buzz reading Overlapping ・ True/False questions に取り組む。 【個人→ペア (グループ)】	・ 音読の注意点を確認する。 ・ 理由まで考えさせる。	大きな声で意欲的に取り組んでいるか (観察) 意欲的に取り組んでいるか (観察・応答)
まとめ (3)	<u>Closing</u> ・ 本時の内容を確認する。 ・ 次回の指示をする。		

(3) 本時の具体的な評価規準

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
表現の能力	本文中の語句・表現を組み合わせて正しく文を再構成できている。	本文中の語句・表現を用いながら、文を再現しようとしている。	目標が達成できている生徒の模倣をさせたり、具体例を提示したりして活動を促す。
理解の能力	本文中に用いられている語句・表現が定着しており、英文の内容が十分に理解できている。	本文中に用いられている語句・表現を理解できている、英文の内容がおおむね理解できている。	目標が達成できている生徒の支援を借り、内容理解を促す。

第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ 学習指導案

日 時： 平成28年11月8日(火)
 第5校時 13:35～14:25
 対 象： 3年生 4R 40名
 場 所： 4R教室
 授業者： 勝部浩志

1. 単元名

NEO 現代を読む Standard (いっずな書店)
 Unit 12 Environment—Serengeti—

2. 単元の目標

- (1) 読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換する。(関心・意欲・態度)
- (2) 読み取った情報をもとに、文章を英語で再現する。(表現の能力)
- (3) 400～500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)
- (4) 関係詞、準動詞を用いた文の構造を理解する。(知識・理解)

3. 単元の評価規準

観点	ア. 関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 知識・理解
単元(題材)の評価規準	読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換をしている。	読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができている。	400～500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解することができている。	関係詞、準動詞を用いた文の構造を理解している。
学習活動における具体的評価規準	ペア、グループワークにおいて、読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換をしている。	ペア、グループワークにおいて、読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができている。	本文を読んで、教師の発問やワークシートの問題に答えることができる。	ペア、グループワークにおいて、学習事項を活用して会話をすることができる。

4. 学習の基盤

(1) 生徒観

(2) 教材観

本課は、タンザニアの世界自然遺産地であるセレンゲティ国立公園を巡る、幹線道路建設計画について述べている文章である。経済的利益を主張するタンザニア政府と、野生動物の保護を主張する環境保護主義者の考え方を読み取り、生徒にどちらがより大切かを考えさせ、伝えあい、環境保護への意識を高めることのできる教材である。

(3) 指導観

セレンゲティ国立公園の位置や特徴についての補足説明を行い、タンザニア政府と環境保護主義者の主張について、本文に書かれていないところまで理解を深めていきたい。また、オーストラリアにおいて、宅地開発によってコアラが絶滅の危機に瀕しているという関連入試問題を読ませることで、人類の発展や経済的利益重視によって環境や野生動物が受ける影響も確認していきたい。

5. 単元の指導と評価計画

時程	ねらいと主な学習活動	評価規準				評価方法
		関	表	理	知	
第1時	○導入 ○単元の概要把握 ・論理展開、段落構造の把握			●		ワークシート 活動の観察
第2時	○設問の解答解説 ・文構造の把握 ○要約文作成			●	●	ワークシート 活動の観察
第3時 ☆本時	○リテリング ○意見発表、共有【ペア、グループ】 ○関連題材読解	●	●	●		ワークシート 活動の観察

6. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換する。(関心・意欲・態度)
- ②読み取った情報をもとに、文章を英語で再現する。(表現の能力)
- ③500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)

※「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標との関連 → 話すこと①②、書くこと①、聞くこと①、読むこと①

◎松江北高等学校「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標 (第3学年終了時)

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
①身近なテーマ・社会問題に関して、客観的な根拠と共に自分なりの考えを述べるができる。 ②相手の意見を理解し、自分の意見を主張することができる。	①身近なテーマ・社会問題に対して自身の意見を、説得力ある根拠と共に主張することができる。②日本語特有の表現に対しても、その意味するところを即座に見抜き自然な英語表現に改めることができる。	①話し手の意図や内容、状況を理解し、情報を正確に聞き取ることができる。 ②比較的速いスピード(170wpm)で話されるまともりのある英語を、要点を把握しながら理解することができる。	①500~600語程度の抽象的な英文を読み、大まかな内容が理解できる。②センター試験の読解問題で90%以上の得点ができる。

(2) 展開

	生徒の活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (7)	Warm up & Retelling ・本時の活動を理解する。 ・イラストを見ながら自分の言葉でリテリングを行い、本文の内容を復習する。 【個人→ペア】	・教師のモデルを見せる。 ・イラストを見て、自分の言葉で相手にわかりやすくリテリングさせる。	自分の言葉で伝えようとしているか (観察)
展開 (38)	Activity 1 Do you think that a new road should be built through the Serengeti or not? ・タンザニア政府が出した道路建設案に対して、意見交換を行う。【グループ】 ・指名された生徒は意見を全体に発表する。	・発表する際の注意点を伝える。 ・自分の考えとその理由をきちんと伝えさせる。 ・相手の意見を聞き取らせる。 ・クラスに聞こえるような声の大ききで発表させる。	意欲的に取り組んでいるか (観察)

	<p><u>Activity 2</u> Let's learn from another country.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアにおいて、宅地開発によってコアラが絶滅の危機に瀕しているという関連題材を読んで、大まかな内容を理解する。【個人→ペア】 ・全体で論理展開や段落構造の把握、確認を行う。 ・人類の発展や経済的利益重視による野生動物への影響を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間とパラグラフを意識した読みをさせる。 ・関連題材から学べることを考えさせる。 	<p>意欲的に取り組んでいるか (観察・応答)</p>
ま と め (5)	<p><u>Closing</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を確認する。 ・次回の指示をする。 		

(3) 本時の具体的な評価規準

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
関心・意欲・態度	読み取った情報をもとに、自分の考えを理由も含めて伝え、意見交換をしている。	読み取った情報をもとに、自分の考えを伝え、意見交換をしようとしている。	目標が達成できている生徒の模倣をさせたり、モデルを提示したりして活動を促す。
表現の能力	本文中の語句・表現を組み合わせて正しく文を再構成できている。	本文中の語句・表現を用いながら、文を再現しようとしている。	目標が達成できている生徒の模倣をさせたり、具体例を提示したりして活動を促す。
理解の能力	本文中に用いられている語句・表現が定着しており、英文の内容が十分に理解できている。	本文中に用いられている語句・表現を理解できており、英文の内容がおおむね理解できている。	目標が達成できている生徒の支援を借り、内容理解を促す。

第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ 学習指導案

日 時： 平成 28 年 11 月 16 日 (水)

第 4 校時 11:50 ~12:40

対 象： 3 年生 4R 40 名

場 所： 4R 教室

授業者： 勝部浩志

1. 単元名

NEO 現代を読む Standard (いっぴずな書店)

Unit 17 Science—Ig Nobel prize—

2. 単元の目標

- (1) 読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換する。(関心・意欲・態度)
- (2) 読み取った情報をもとに、文章を英語で再現する。(表現の能力)
- (3) 500~600 語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)
- (4) 関係詞、疑問詞節、準動詞、助動詞<推量>を用いた文の構造・意味を理解する。(知識・理解)

3. 単元の評価規準

観点	ア. 関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 知識・理解
単元 の 評 価 規 準 (題 材)	読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換をしている。	読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができる。	500~600 語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解することができる。	関係詞、疑問詞節、準動詞、助動詞<推量>を用いた文の構造・意味を理解している。
学習活動における 具体的評価規準	ペア、グループワークにおいて、読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換をしている。	ペア、グループワークにおいて、読み取った情報をもとに、文章を英語で再現することができる。	本文を読んで、教師の発問やワークシートの問題に答えることができる。	ペア、グループワークにおいて、学習事項を活用して会話をすることができる。

4. 学習の基盤

(1) 生徒観

(2) 教材観

本課は、イグノーベル賞について述べている文章である。先頃、今年のノーベル賞受賞者とイグノーベル賞受賞者が発表になり、生徒たちにとっては身近な話題と言える。ノーベル賞にも触れながら、イグノーベル賞の持つ社会的価値を本文中に挙がっている研究や過去の受賞研究から読み取り、一見するとおもしろいような研究が実生活にどのように生かせるかを考えさせ、文系の生徒にも科学と実生活のつながりを実感させたい。

(3) 指導観

イグノーベル賞と併せてノーベル賞にも触れ、過去のノーベル賞受賞者とイグノーベル賞受賞者を示すことで、日本が世界の研究に大いに貢献していることを生徒に示す。その一方で、国際平和や経済学での貢献度については十分に大きいとは言えないことにも触れ、経済学者でありながら 2006 年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏について書かれた英文を取り上げ、ユヌス氏が行ったことを読み取らせることで、生徒の社会貢献意識を高めたい。

5. 単元の指導と評価計画

時程	ねらいと主な学習活動	評価規準				評価方法
		関	表	理	知	
第1時	○導入 ○単元の概要把握			●		ワークシート 活動の観察
第2時	○設問の解答解説、文構造の把握 ○要約文作成			●	●	ワークシート 活動の観察
第3時 ☆本時	○意見発表【ペア】 ○関連題材読解	●	●	●		ワークシート 活動の観察

6. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①読み取った情報をもとに、文章について考えを伝えあい、意見交換する。(関心・意欲・態度)
- ②読み取った情報をもとに、英語で考えを再現する。(表現の能力)
- ③500語程度の英文を読んで、論旨を的確に理解する。(理解の能力)

※「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標との関連 → 話すこと①、聞くこと②、読むこと①

◎松江北高等学校「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標 (第3学年終了時)

話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
①身近なテーマ・社会問題に関して、客観的な根拠と共に自分なりの考えを述べることができる。 ②相手の意見を理解し、自分の意見を主張することができる。	①身近なテーマ・社会問題に対して自身の意見を、説得力ある根拠と共に主張することができる。 ②日本語特有の表現に対しても、その意味するところを即座に見抜き自然な英語表現に改めることができる。	①話し手の意図や内容、状況を理解し、情報を正確に聞き取ることができる。 ②比較的速いスピード(170wpm)で話されるまともりのある英語を、要点を把握しながら理解することができる。	①500~600語程度の抽象的な英文を読み、大まかな内容が理解できる。 ②センター試験の読解問題で90%以上の点数ができる。

(2) 展開

	生徒の活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (8)	Warm up & Presentation ・本時の活動を理解する。 ・指名された生徒のペアは「20-21世紀最大の発明」は何かを理由とともに全体に向けて発表する。	・自分たちの言葉で相手にわかりやすく表現させる。 ・時間をかけすぎない。3ペア程度に収める。	自分の言葉で伝えようとしているか(観察)
展開 (41)	Activity 1 Do you know Muhammad Yunus? ・ムハマト・ユヌス氏についての説明を聞き、ユヌス氏が行ったことについての英文をリスニング→読解する。 ・解説を聞き、グラミン銀行の成果と、その成果を導いた融資の仕組みを簡単に理解する。	・ユヌス氏へのつながりとして、大隅教授のノーベル賞受賞の話から、過去の日本人の受賞歴を出し、経済学賞と平和賞の受賞がどうなっているかを確認する。 ・ユヌス氏の写真を見せ、簡単な人物紹介から入る。 ・グラミン銀行の創設とグラミン銀行の成果を簡単に示す。 ・その成果を導いた融資の仕組みに関心を向けさせてから、入試問題の読解に入る。	意欲的に取り組んでいるか(観察)

	<p><u>Activity 2</u> Let's learn from Muhammad Yunus.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞した2006年に出題された入試問題を、指示に従って読み、内容を理解する。 【個人→ペア】 ・全体で論理展開や段落構造の把握、確認を行う。 ・ユヌス氏から学べることを確認する。提示された文の空所に入る単語を考える。 He has helped millions of poor people with high (e) and (e). 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示に従って行わせる。 ・時間とパラグラフ、論理展開を意識した読みをさせる。 ・要点のみを押さえる。 ・ユヌス氏から学べることを提示し、空所に入る単語を考えさせる。 He has helped millions of poor people with high (expertise) and (enthusiasm). ・締めくくりとして、学び続けることの大切さを語る。 	<p>意欲的に取り組んでいるか (観察・応答)</p>
<p>ま と め (1)</p>	<p><u>Closing</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を確認する。 ・次回の指示をする。 		

(3) 本時の具体的な評価規準

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
関心・意欲・態度	読み取った情報をもとに、自分の考えを理由も含めて伝え、意見交換をしている。	読み取った情報をもとに、自分の考えを伝え、意見交換をしようとしている。	目標が達成できている生徒の模倣をさせたり、モデルを提示したりして活動を促す。
表現の能力	本文中の語句・表現を組み合わせて正しく文を再構成できている。	本文中の語句・表現を用いながら、文を再現しようとしている。	目標が達成できている生徒の模倣をさせたり、具体例を提示したりして活動を促す。
理解の能力	本文中に用いられている語句・表現が定着しており、英文の内容が十分に理解できている。	本文中に用いられている語句・表現を理解できており、英文の内容がおおむね理解できている。	目標が達成できている生徒の支援を借り、内容理解を促す。